

8. 区債現在高と基金現在高の推移

区債現在高は平成14年度以降、減少が続いている。一方、基金現在高は平成19年度に続き増加した。

区債現在高は、介護保険創設に伴う普通会計の集計方法の変更により、平成12年度に大きく減少した。その後、平成14年度から再び減少しており、平成20年度は約277億円、前年度と比較すると約15億円の減となった。これは、元金償還の進捗による減と、台東病院整備に対する起債による増との相殺による。

なお、平成11年度以前の普通会計の集計方法によると、約349億円となる。

区債現在高の構成では、平成6年度から発行してきた減税補てん債等の比率が平成11年度から19年度まで増加傾向であったが、平成20年度は23.89%となり前年度から1.11ポイント低下した。

基金現在高は、平成4年度から16年度まで毎年減少が続いてきたが、平成17年度以降は増加している。平成20年度の増加額は、前年度に比べ約27億円、増加率は、8.6%となっている。

区債現在高と基金現在高の推移

単位：百万円

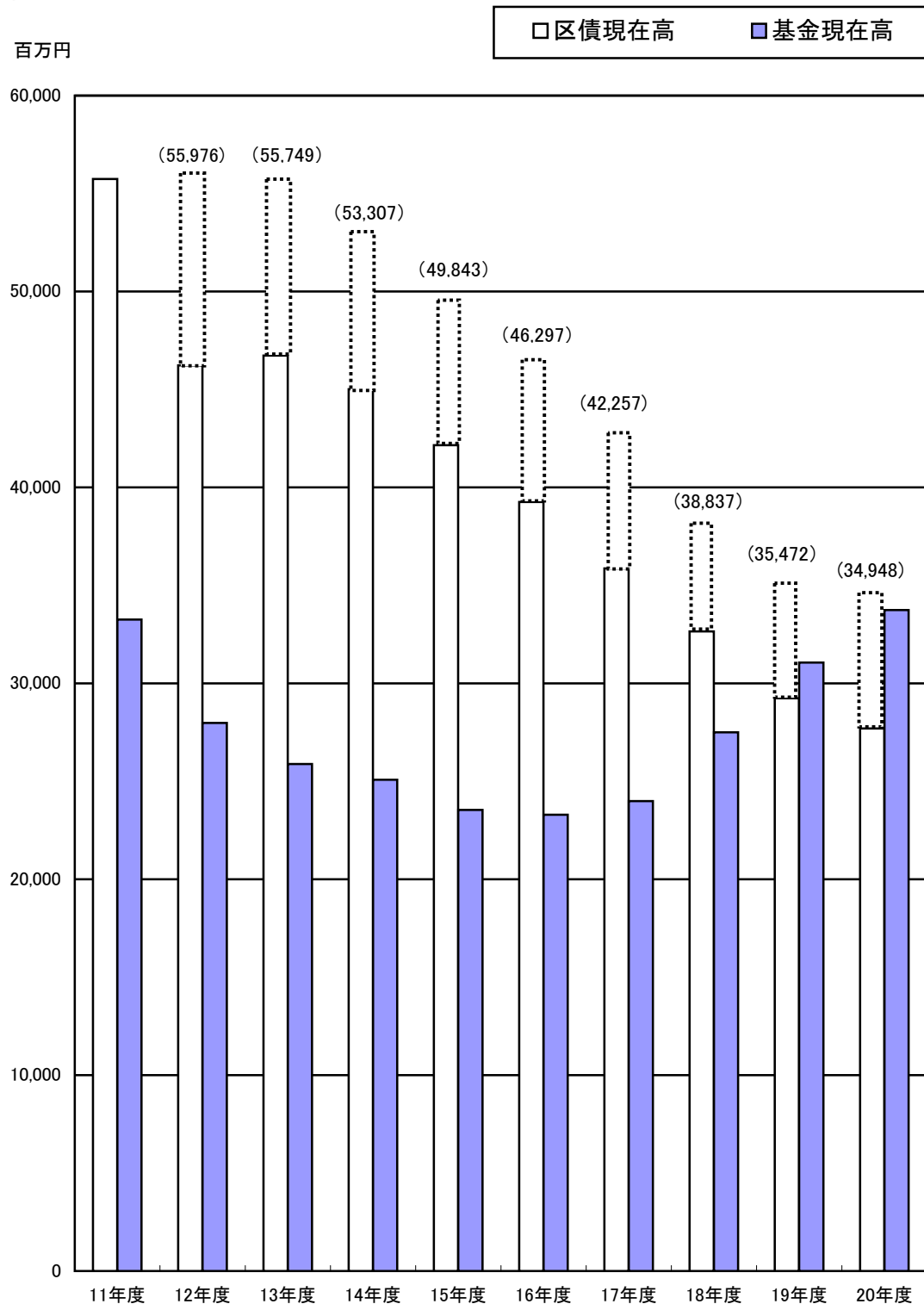
区分	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度
年度末区債現在高	55,742	46,231	46,730	45,013	42,159	39,253	35,868	32,649	29,235	27,696
〔（ ）は介護保険を普通会計に含めた場合〕		(55,976)	(55,749)	(53,307)	(49,843)	(46,297)	(42,257)	(38,837)	(35,472)	(34,948)
うち減税補てん債等	8,975	9,096	8,674	8,618	8,509	8,460	8,299	7,974	7,310	6,617
減税補てん債比率(%)	16.10	19.68	18.56	19.15	20.18	21.55	23.14	24.42	25.00	23.89
年度末基金現在高	33,252	27,978	25,878	25,075	23,536	23,294	23,985	27,501	31,058	33,743
								(27,687)	(31,480)	(34,401)
公共施設建設基金	12,588	11,169	10,142	10,039	9,819	9,600	9,384	11,403	12,940	13,541
都市整備基金	5,443	3,741	3,160	2,858	1,723	1,523	1,524	1,527	1,534	1,543
環境整備基金	1,975	1,926	1,997	1,952	2,143	2,144	1,950	2,037	2,126	2,216
財政調整基金	4,812	4,233	3,751	3,430	3,202	3,469	4,561	5,937	7,823	9,781
減債基金	4,107	4,116	4,423	4,424	4,425	4,426	4,428	4,437	4,458	4,486
災害対策基金	307	308	309	309	309	309	309	310	311	313
その他	4,020	2,485	2,096	2,063	1,915	1,823	1,829	1,850	1,866	1,863


※その他基金：社会福祉基金・奨学基金・教育振興基金・緑化推進基金・国際交流親善基金・定住基金

(介護保険円滑導入基金・介護保険給付費準備基金は、平成12年度からの普通会計の集計方法の変更に基づき、12年度以降の集計からは除外している。)

※平成18年度以降の年度末区債現在高及び年度末基金現在高の（ ）は、従前の集計方法に合わせるため、満期一括償還方式で発行した特別区債に対する減債基金積立額を加算している。

区債現在高と基金現在高の推移



※  部分は、介護保険を普通会計に含めて集計した場合の推移